

令和4年度

第10回・第11回ビジネスコミュニケーション検定試験

実施報告

資 料



主 催 公益財団法人全国商業高等学校協会

公益財団法人全国商業高等学校協会 主催
ビジネスコミュニケーション検定試験規則

(平成 25 年 2 月、平成 26 年 2 月、平成 27 年 2 月、令和 3 年 2 月改定・令和 4 年 4 月施行)

- 第 1 条 公益財団法人全国商業高等学校協会は、ビジネスマナーおよびコミュニケーションに関する知識および能力を検定する。
第 2 条 検定は筆記試験によって行う。
第 3 条 検定は 1 種類とし、級の区別を設けない。
第 4 条 検定試験は全国一斉に同一問題で実施する。
第 5 条 検定試験は年 1 回実施する。
第 6 条 検定試験の出題範囲は別に定める。
第 7 条 検定に合格するためには、次の成績を得なければならない。

試験名	合格基準
筆記試験	100 点満点で、70 点以上

- 第 8 条 検定に合格した者には、合格証書を授与する。
第 9 条 前条による合格証書は、次の様式による。

様 式

第 号
合格証書
氏名
年 月 日生
本協会主催 第 回ビジネスコミュニケーション検定試験に合格したことを証します。
令和 年 月 日
公益財団法人 全国商業高等学校協会
理事長 氏 名 印

- 第 10 条 検定試験志願者は所定の受験票に受験料を添えて本協会に提出しなければならない。
第 11 条 試験委員は高等学校その他の関係職員がこれに当たる。

ビジネスコミュニケーション検定試験施行細則

- 第 1 条 受験票は本協会で作成し、受験票は試験当日持参しなければならない。
第 2 条 検定試験規則第 5 条による試験日は、毎年 12 月の第 3 日曜日とする。
第 3 条 筆記試験の制限時間は 40 分とする。
第 4 条 受験料は、1,300 円とする。(消費税を含む)
第 5 条 試験会場では試験委員の指示に従わなければならない。
第 6 条 合格発表は試験施行後 1 か月以内に行う。その日時は試験当日までに発表する。

ビジネスコミュニケーション検定試験実施に係る特例について
新検定移行期における令和 4 年度・5 年度に限り、検定試験を年 2 回実施する。
試験日は、7 月の第 2 日曜日および 12 月の第 3 日曜日とする。

令和4年度 第10回ビジネスコミュニケーション検定試験

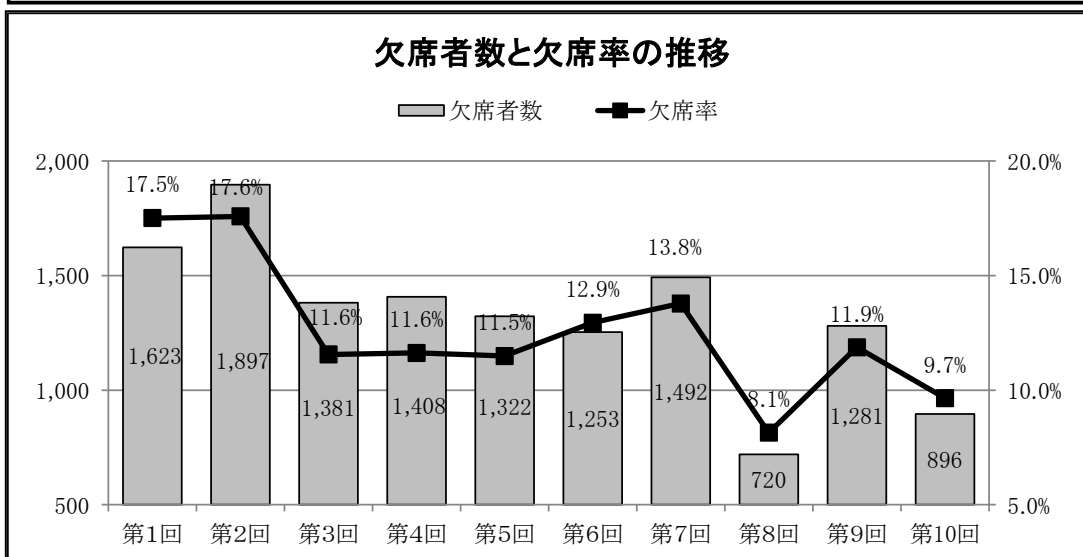
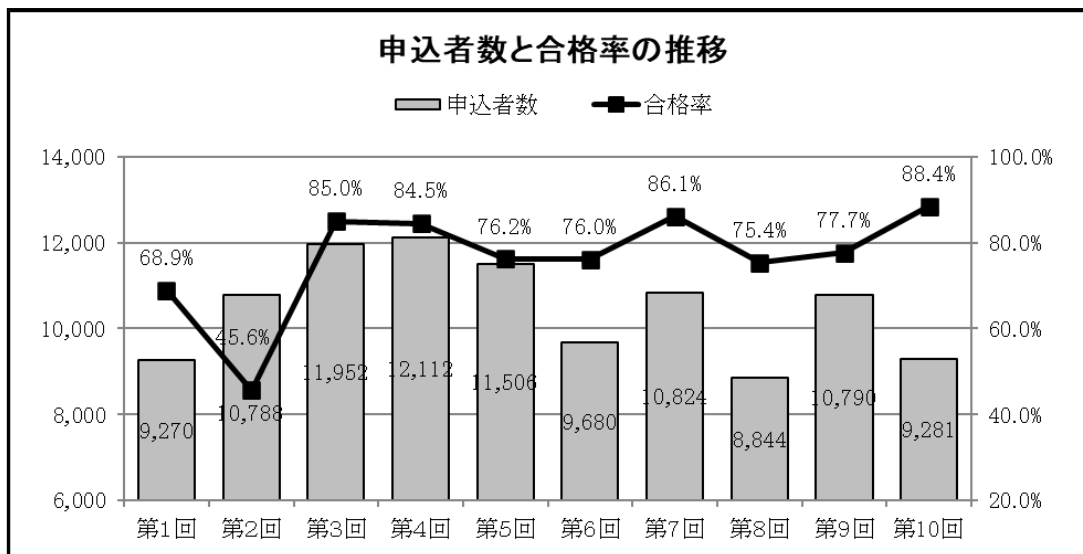
本部校アンケート **集計結果**

1. 受験状況

〈全般〉

(注)本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値より作成した。

年	回	試験場校 分会場校	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
2013	第1回	239	9,270	1,623	17.5%	7,647	5,265	2,382	68.9%
2014	第2回	263	10,788	1,897	17.6%	8,891	4,056	4,835	45.6%
2015	第3回	255	11,952	1,381	11.6%	10,571	8,986	1,585	85.0%
2016	第4回	245	12,112	1,408	11.6%	10,704	9,040	1,664	84.5%
2017	第5回	248	11,506	1,322	11.5%	10,184	7,756	2,428	76.2%
2018	第6回	216	9,680	1,253	12.9%	8,427	6,406	2,021	76.0%
2019	第7回	233	10,824	1,492	13.8%	9,332	8,034	1,298	86.1%
2020	第8回	208	8,844	720	8.1%	8,124	6,122	2,002	75.4%
2021	第9回	242	10,790	1,281	11.9%	9,509	7,384	2,125	77.7%
2022	第10回	226	9,281	896	9.7%	8,385	7,416	969	88.4%

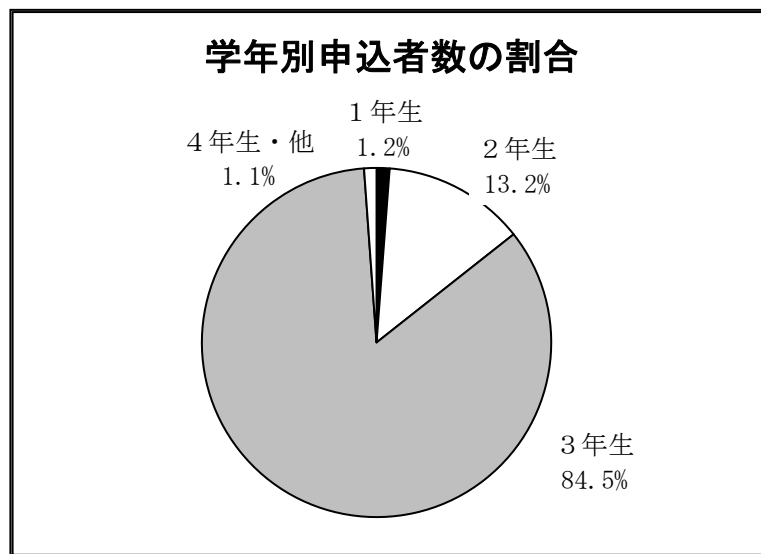


〈学年別受験状況〉

学年	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
1年生	89	11	12.4%	78	70	8	89.7%
2年生	976	72	7.4%	904	762	142	84.3%
3年生	6,267	581	9.3%	5,686	5,134	552	90.3%
4年生・他	85	13	15.3%	72	64	8	88.9%
合計	7,417	677	9.1%	6,740	6,030	710	89.5%

(注1) 本部校アンケートには未回収分があるため、全商Webによる集計値と異なる値となっている。

(注2) 本部校アンケートには複数回答や回答数の不一致、集計方法の誤り等がある。



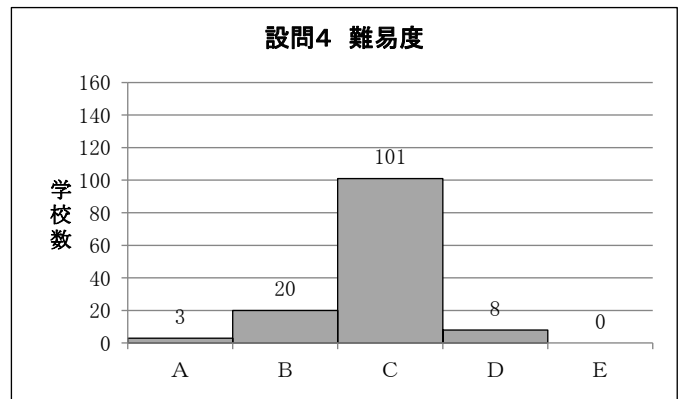
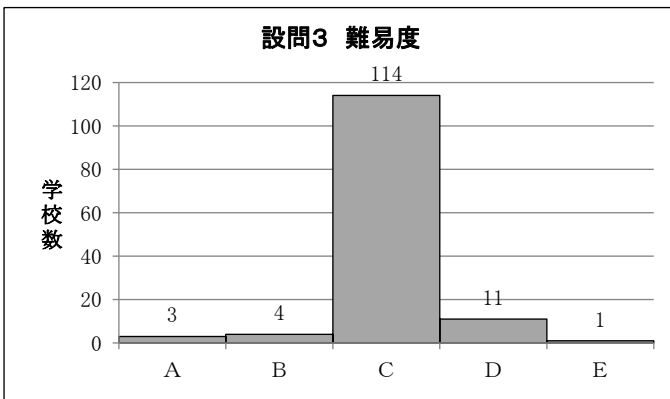
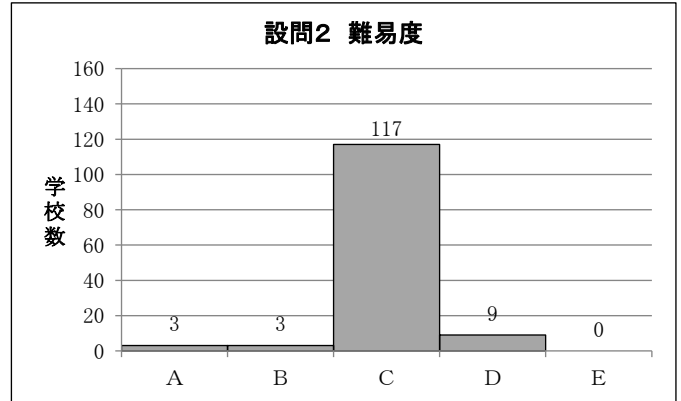
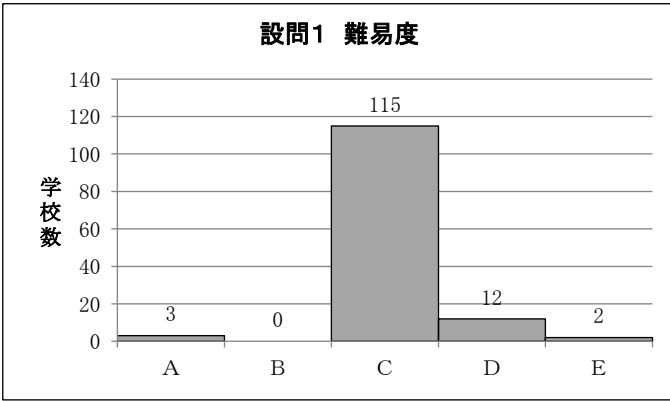
2. 受験者の内訳

内訳	計	割合
特定授業履修者全員	79	49.1%
就職希望者全員	11	6.8%
学年全員(1年生)	0	0.0%
学年全員(2年生)	3	1.9%
学年全員(3年生)	9	5.6%
学年全員(学年不明)	4	2.5%
希望者のみ	45	28.0%
その他	10	6.2%

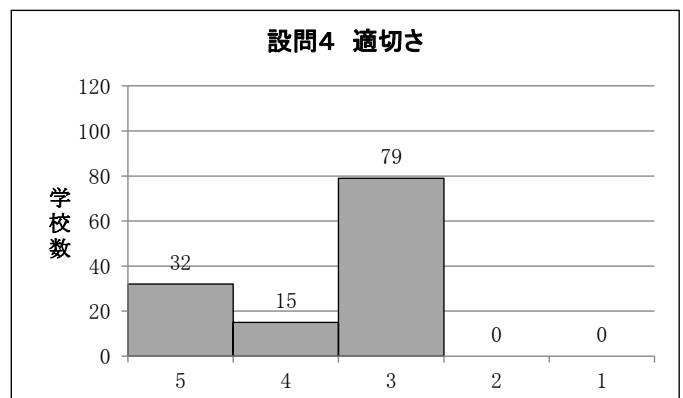
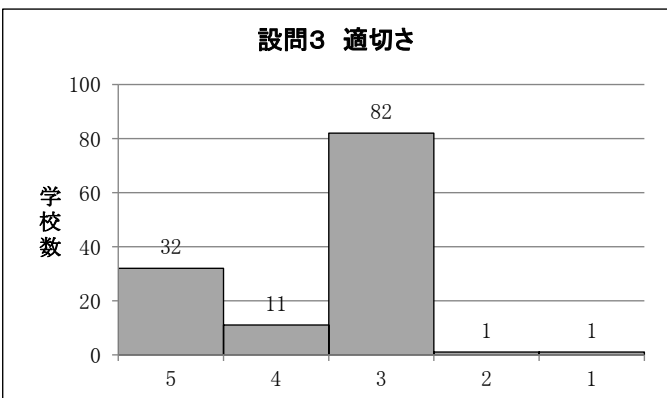
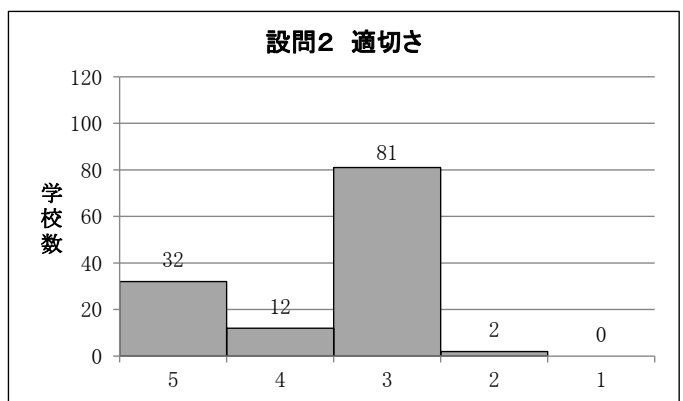
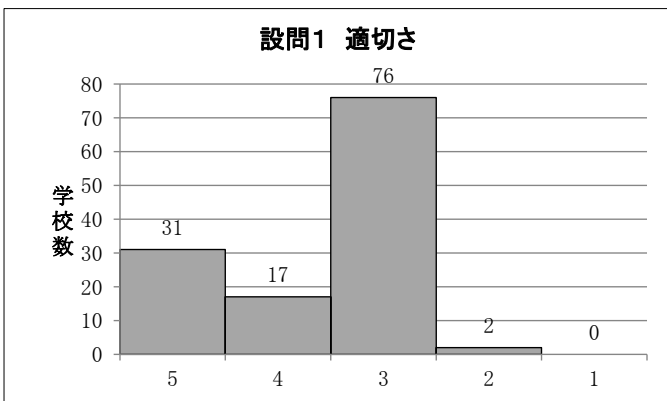
3. 受験にあたっての学習形態

	内訳	計	割合	
授業	ビジネス基礎	11	5.9%	72.9%
	ビジネス実務	33	17.6%	
	広告と販売促進	4	2.1%	
	総合実践	27	14.4%	
	課題研究	38	20.2%	
	総合的な学習の時間	3	1.6%	
	学校設定科目	17	9.0%	
	その他の科目	4	2.1%	
	授業外	ホームルーム等	3	
講習会等		1	0.5%	
進路指導の一環		11	5.9%	
受験者の自主学習		30	16.0%	
期間限定補習		1	0.5%	
その他		5	2.7%	

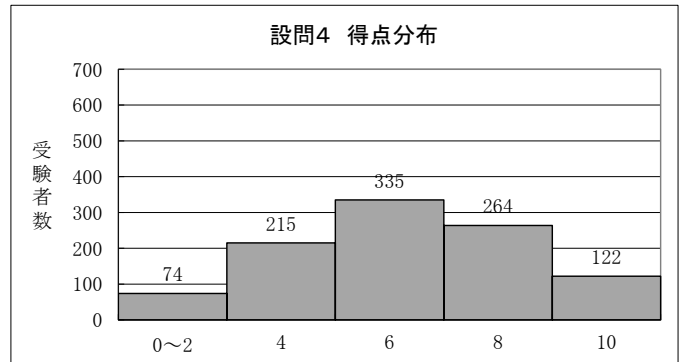
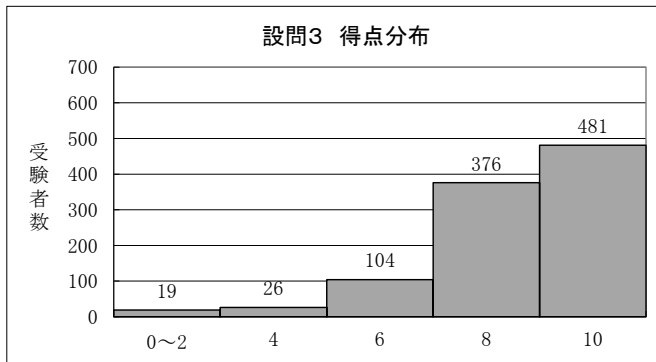
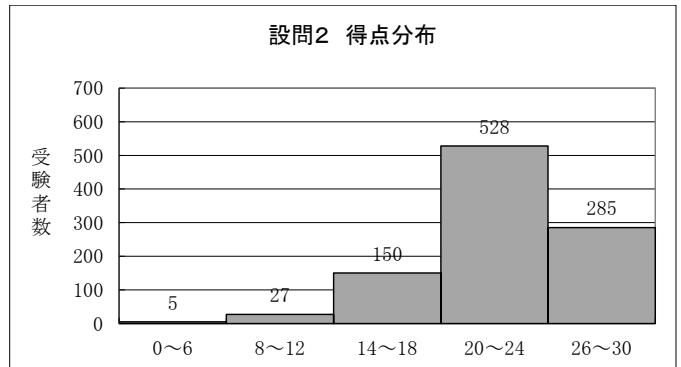
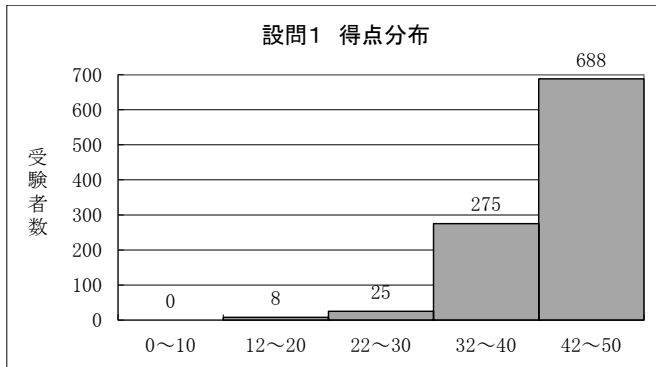
4. 筆記試験の難易度と適切さ
 〈設問別難易度〉



〈設問別適切さ〉



〈設問別得点分布〉



〈筆記試験意見〉

【設問1（ビジネスマナーに関する内容）】

- ・キリスト教式の葬儀マナーを知っているのか。
- ・基礎・基本的な問題で難易度も適切でした。
- ・問題の内容と難易度も適切だったので解答率もよかった。問題集で勉強していたら適切に答えられる問題で、基礎的な知識を問う問題として適当だと思う。
- ・近年の話題が盛り込まれており良問であった。
- ・過去問を解いていれば問題ない良問。

【設問2（コミュニケーションに関する内容）】

- ・割り込み時の対応は現在の治安状況においてどうか。時事に取り入れた良問である。
- ・(6)「A商品とB商品を」と言うのであれば、グラフの左下が基準点なので、下のグラフがA商品、上がB商品とした方がよかったのではないかな。
- ・社会に出る前の常識として問われるような問題で適切だった。
- ・近年の話題が盛り込まれており良問であった。
- ・問題文7問中6問が適切でないものを選びなさいだったので、読み間違えた生徒もいるのではと思った。

【設問3（設定場面における適切な対応）】

- ・イラストと内容があっていないように思う。
- ・事例としてとても良い問題でした。
- ・実務に即した内容でよい。
- ・実践的な問題でいいと思います。
- ・ケーススタディ的な問題は必要だと思います。
- ・販売員及び客の立場で考える力が必要だった。大問3だけが「～ついて」と問いの説明がないのであるとよい。
- ・近年の話題が盛り込まれており良問であった。

【設問4（ビジネス全般に関する内容）】

- ・時流を捉えた問題でよかった。
- ・生徒にとって難しい問題。
- ・時事問題が適度に出題されていてよかった。
- ・良問でした。時事問題を入れたのはよかった。
- ・最近のニュース等で耳にする用語が出題されていていい。
- ・時代に即した問題である。専門用語がわからなくても文章をよく読み込めば解答できる問題であると思う。
- ・近年の話題が盛り込まれており良問であった。
- ・あまり身近でない設問の誤答が多かった。（1）（3）新しい問題に慣れていない生徒が多かった。

5. ビジネスコミュニケーション検定試験全般についての意見集約

【実施時期について】

- ・就職試験対策に良い。これからもこの時期に実施してほしい。（岩手県）
- ・3年生の7月は部活動の大会と重なり受験できない生徒もいるので、年2回実施となったのはよかった。12月には2年次でも受験できる。（秋田県、茨城県）
- ・年2回実施となり、部活等で受験できなかった生徒がもう一度受験できるのでありがたい。（徳島県）
- ・7月検定の実施日が期末考査とぶつかっている学校が多いため受験を回避していると思われる。（東京都）
- ・7月実施はなくさないでほしい。（福島県）
- ・7月受験に戻してほしい。（島根県、佐賀県）
- ・本校では12月の検定試験は実施しない予定である。（東京都）

【内容について】

- ・適切な問題であった。（埼玉県、滋賀県）
- ・良問であった。（千葉県、三重県、沖縄県）
- ・正答率の高い問題と低い問題がバランス良く配置されていた。（山梨県）
- ・旬な時事問題が出題され、進路に向けて知らなければならぬ情報を確認できた。ただ、旬すぎて誤答が多かった。（静岡県）
- ・敬語で話すのが苦手な生徒が多く、授業では時間をかけて説明した。検定でも敬語にかかわる問題が多く出題されており、生徒の出来もよかった。（愛知県）
- ・出題範囲等が改訂されたが、筆記試験をスムーズに実施することができた。（岐阜県）
- ・検定移行期間ということもあり、選択肢の内容が分かりやすくなっているように感じた。（三重県）
- ・筆記試験のみとなり、検定内容が簡素化されたと思うが、実務の内容を評価できるようなことも考慮に入れる検定を、検定級を分けて実施してもよいのではないか。（滋賀県）
- ・試験時間が50～60分程度となるような出題数でもよいのではないか。（愛媛県）
- ・就職試験や社会人に大事な知識である。（福井県）
- ・秘書検定と比べて選択肢が簡単である。面接試験がなくなったので、秘書検定3級の受験に変えてもよいかと感じる。（福井県）

【試験時間について】

- ・英語検定と同日実施の場合、採点処理のあるビジネスコミュニケーション検定を午前実施にしてほしい。（群馬県）

【面接について(今回より廃止)】

(廃止に肯定的)

- ・検定受験に対する生徒の拒絶が以前より少なくなり良かった。(秋田県)
- ・これまで面接の監督割り振りが大変だったが、面接がなくなり教員の負担が減った。(茨城県)
- ・試験監督者の負担減となり良かった。(静岡県)
- ・面接がなくなり良かった。(静岡県, 三重県, 佐賀県)

(廃止に否定的)

- ・面接試験を復活させてほしい。(福島県)
- ・ビジネスコミュニケーション検定というならば、面接は必要。(茨城県)
- ・面接は実施したほうが良い。受験に向けて動機付けになり、緊張感を持つ経験ができるので、やるべきである。(栃木県, 長野県, 奈良県, 鳥取県, 大分県)
- ・就職試験の面接対策として受験させていたが、面接試験がなくなったことで受験を見送った学校や生徒も多かった。(香川県)
- ・面接が外されたことに驚いた。理論(筆記)と実践(面接)の両方が大事ではないか。(愛媛県)

(その他)

- ・面接をAI判定で行うシステムも可能ではないかという意見があった。(山口県)
- ・面接に代わる内容があればよい。(宮城県)

【感想, その他】

- ・普通科高校では生徒数減少が極端に進んでおり、分会場に必要受験者5名確保すら難しくなってくる。へき地から通学している生徒もおり、すべての生徒に受験機会を与えるためにも、人数制限を撤廃してほしい。(秋田県)
- ・教員の働き方改革の観点からも、原則日曜日実施とはするものの、問題漏洩を抑止する文言を要項等に入れたうえで、平日や土曜日を含む標準実施期間内で実施できるようにしてほしい。(秋田県)
- ・ビジネスコミュニケーション検定試験を実施する学校数が減少している。本校での受験者数も減少している状況である。認定試験であることから、秘書検定の受験を目標に授業展開している学校が多いと思われる。(東京都)
- ・情報教育を担う商業教育の検定試験が紙ベースで実施されていることに疑問を感じる。CBT やマークシートでの実施を検討してほしい。検定担当者の負担軽減や公平性の確保にもなる。(山梨県)
- ・マークシートにして、担当者の負担を減らしてほしい。(宮城県, 岡山県)
- ・面接がなくなったので、WEBでの実施が可能であればお願いしたい。(群馬県)
- ・合格者報告者の入力、要項の記載日にはできなかった。今後このようなことがないようにしてほしい。また、合格者登録すると合格者報告書にデータが転送されるとのことだが、Web ページの掲載順を「合格者登録」「合格者報告書」の順にほしい。(山梨県)
- ・変更されていけば良いのですが、“男性らしい”や“女性らしい”という問題は、話しにくい時代ですので、考慮して頂きたいです。(京都府)

令和5年2月4日作成

令和4年度 第11回ビジネスコミュニケーション検定試験

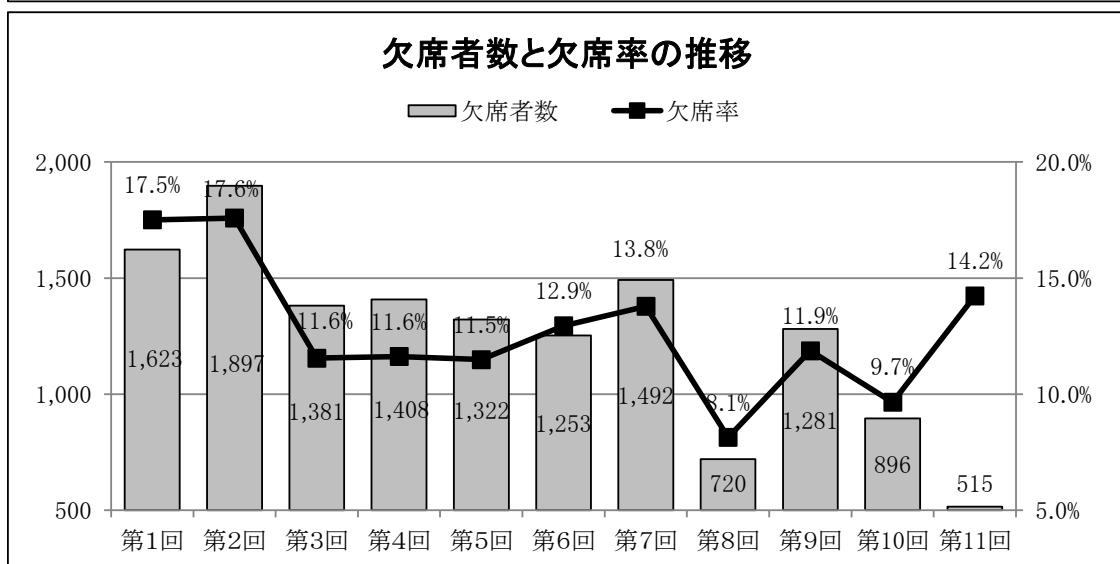
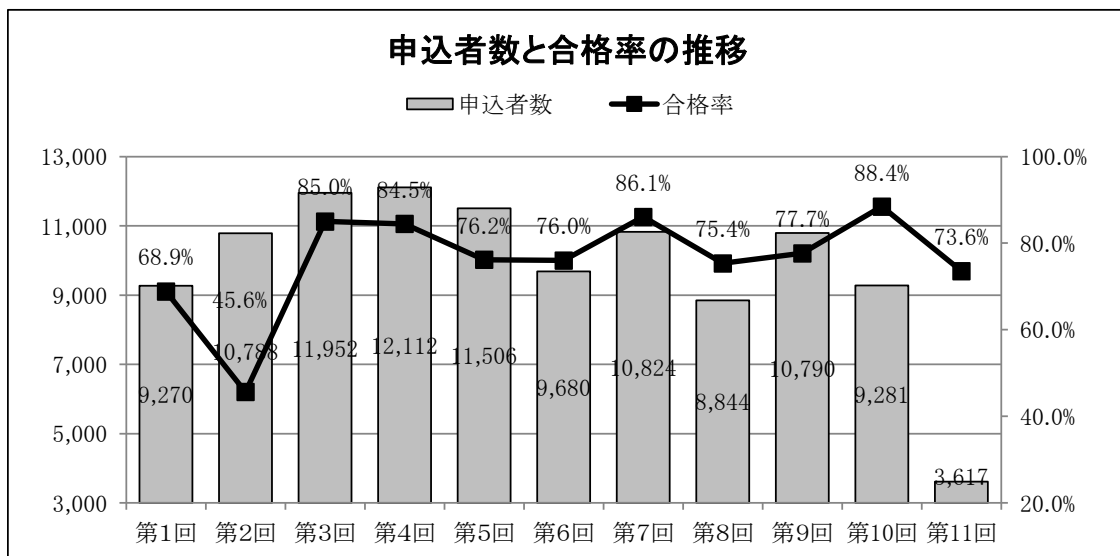
本部校アンケート **集計結果**

1. 受験状況

〈全 般〉

(注)本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値より作成した。

年度	回	試験場校 分会場校	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
2013	第1回	239	9,270	1,623	17.5%	7,647	5,265	2,382	68.9%
2014	第2回	263	10,788	1,897	17.6%	8,891	4,056	4,835	45.6%
2015	第3回	255	11,952	1,381	11.6%	10,571	8,986	1,585	85.0%
2016	第4回	245	12,112	1,408	11.6%	10,704	9,040	1,664	84.5%
2017	第5回	248	11,506	1,322	11.5%	10,184	7,756	2,428	76.2%
2018	第6回	216	9,680	1,253	12.9%	8,427	6,406	2,021	76.0%
2019	第7回	233	10,824	1,492	13.8%	9,332	8,034	1,298	86.1%
2020	第8回	208	8,844	720	8.1%	8,124	6,122	2,002	75.4%
2021	第9回	242	10,790	1,281	11.9%	9,509	7,384	2,125	77.7%
2022	第10回	226	9,281	896	9.7%	8,385	7,416	969	88.4%
2022	第11回	102	3,617	515	14.2%	3,102	2,282	820	73.6%

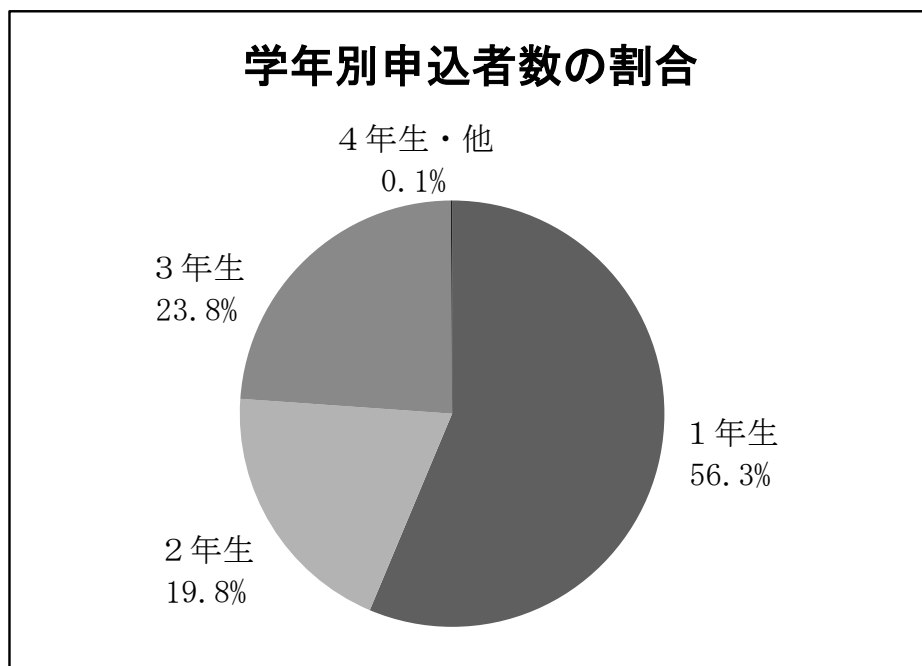


〈学年別受験状況〉

学年	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
1年生	1,698	147	8.7%	1,551	1,200	351	77.4%
2年生	596	88	14.8%	508	336	172	66.1%
3年生	717	171	23.8%	546	407	139	74.5%
4年生・他	3	0	0.0%	3	2	1	66.7%
合計	3,014	406	13.5%	2,608	1,945	663	74.6%

(注1) 本母校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値と異なる値となっている。

(注2) 本母校アンケートには複数回答や回答数の不一致、集計方法の誤り等がある。



2. 受験者の内訳

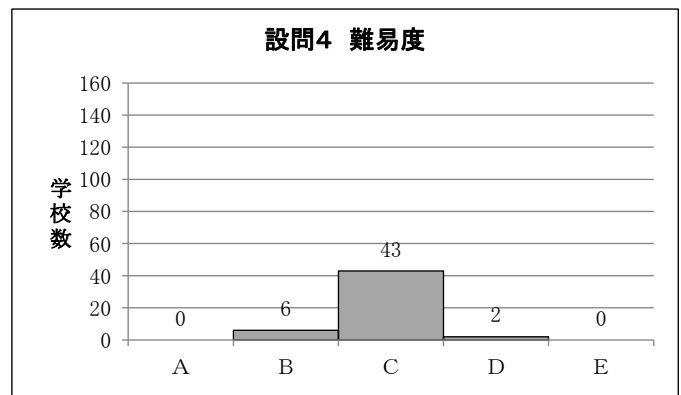
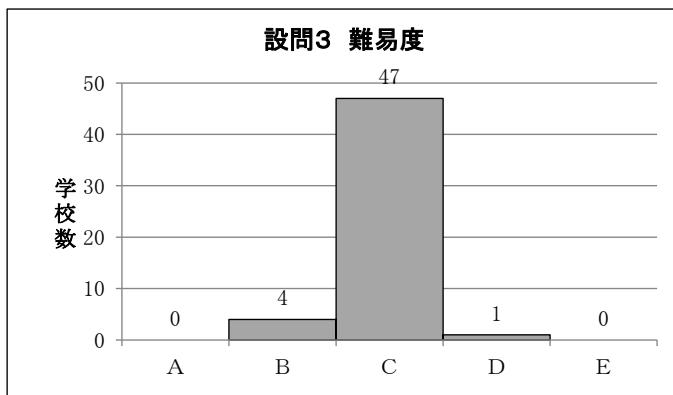
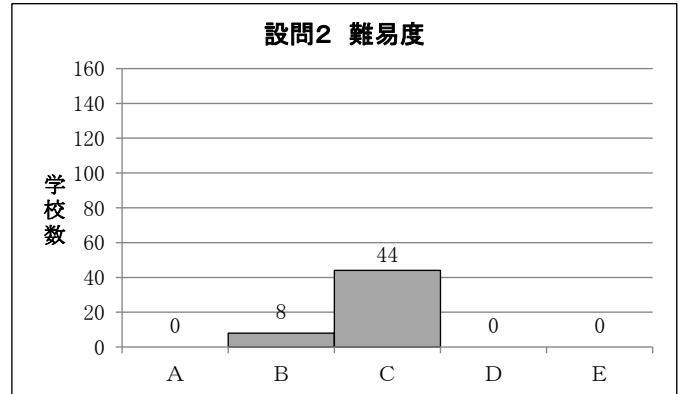
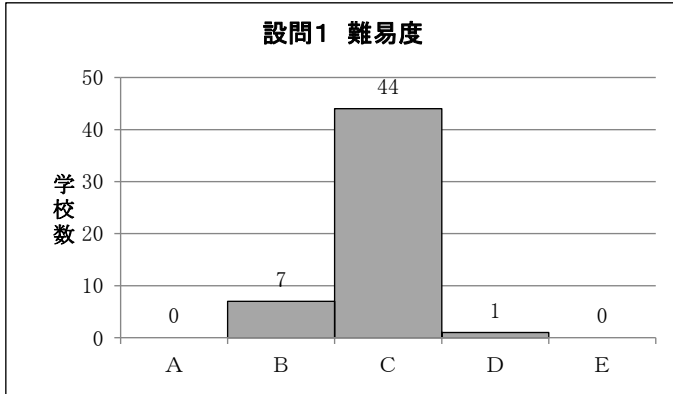
内訳	計	割合
特定授業履修者全員	29	40.3%
就職希望者全員	4	5.6%
学年全員(1年生)	7	9.7%
学年全員(2年生)	1	1.4%
学年全員(3年生)	2	2.8%
学年全員(学年不明)	0	0.0%
希望者のみ	29	40.3%
その他	0	0.0%

3. 受験にあたっての学習形態

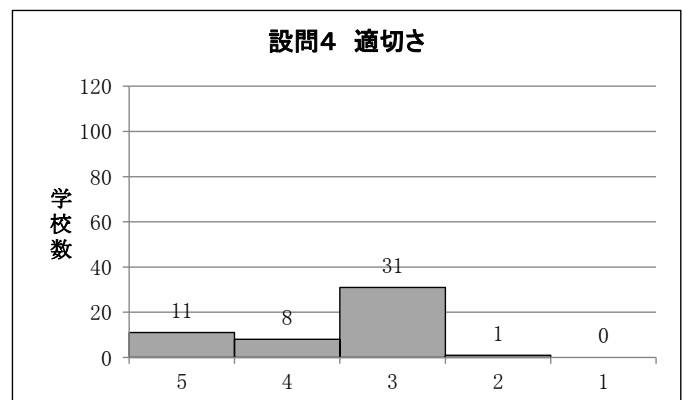
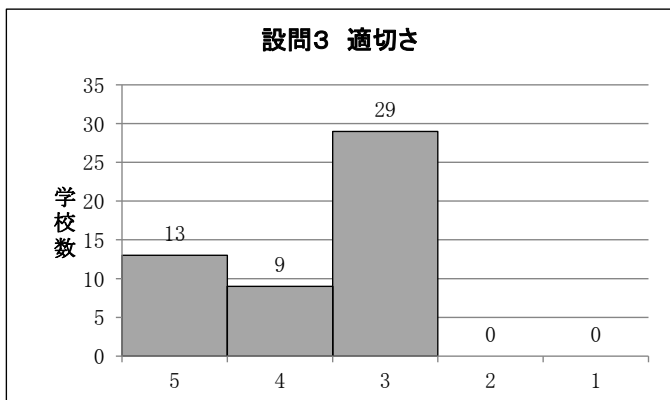
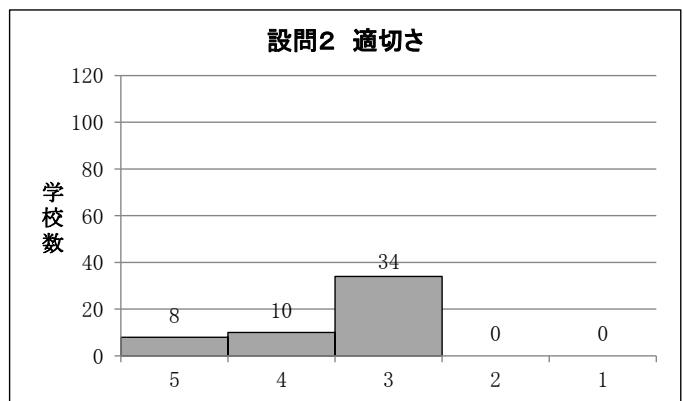
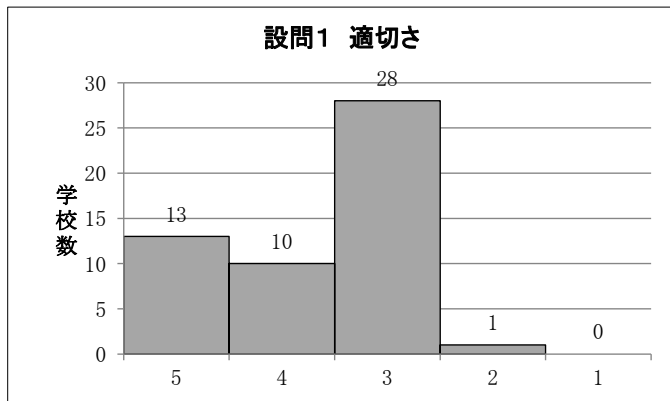
	内訳	計	割合	
授業	ビジネス基礎	8	9.5%	73.8%
	ビジネス実務	14	16.7%	
	広告と販売促進	1	1.2%	
	総合実践	5	6.0%	
	課題研究	9	10.7%	
	総合的な学習の時間	0	0.0%	
	ビジネスコミュニケーション	5	6.0%	
	学校設定科目	8	9.5%	
	その他の科目	12	14.3%	
	授業外	ホームルーム等	0	
講習会等		0	0.0%	
進路指導の一環		1	1.2%	
受験者の自主学習		20	23.8%	
期間限定補習		0	0.0%	
その他		1	1.2%	

4. 筆記試験の難易度と適切さ

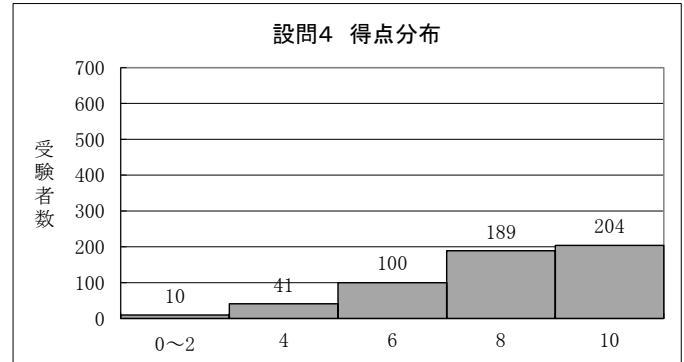
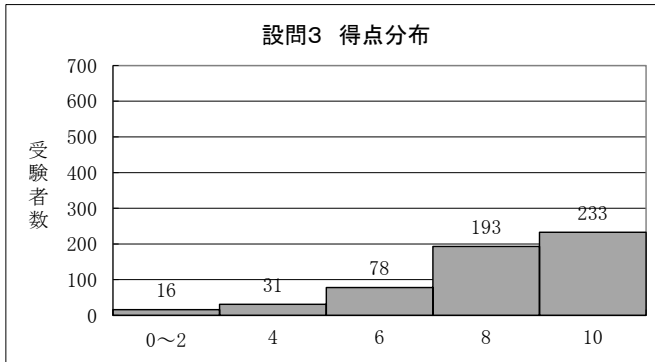
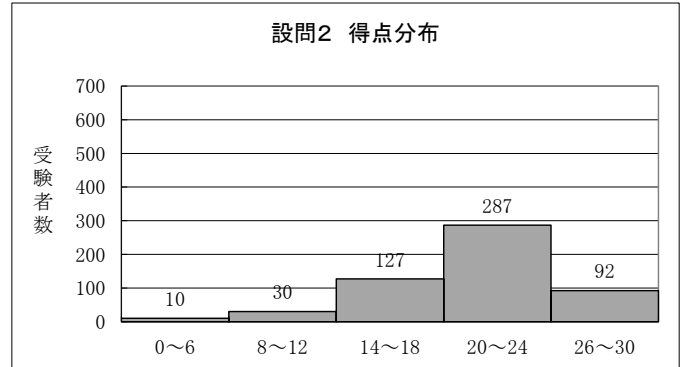
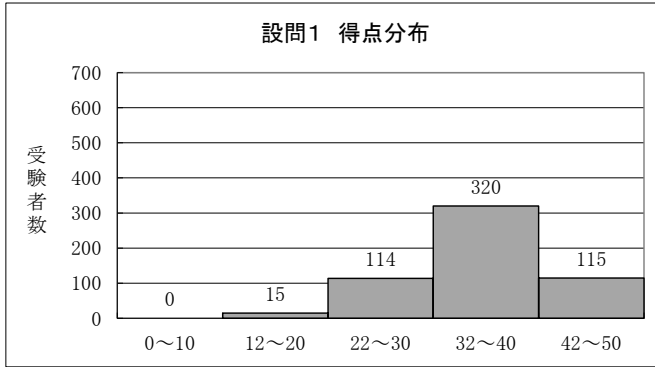
〈設問別難易度〉



〈設問別適切さ〉



〈設問別得点分布〉



〈筆記試験意見〉

【設問1（ビジネスマナーに関する内容）】

- ・良問である。（福島県・愛媛県）
- ・標準的な問題である。（山梨県）
- ・当然知っているはずのエチケットを再確認するためにも必要な問題であると感じる。（奈良県）
- ・適切である。（鹿児島県）

【設問2（コミュニケーションに関する内容）】

- ・良問である。（福島県・愛媛県）
- ・PPM分析は戸惑っている様子が見受けられた。（山梨県）
- ・社会人として必要とされるコミュニケーション能力に関する問題であり、大切に考える。（奈良県）
- ・日頃意識しない言葉遣いに悩んだ生徒が見受けられた。（岡山県）
- ・適切である。（鹿児島県）

【設問3（設定場面における適切な対応）】

- ・良問である。（福島県・愛媛県・山梨県）
- ・ソーシャルメディアの効果はイメージできない生徒が見受けられた。（岡山県）
- ・適切である。（鹿児島県）

【設問4（ビジネス全般に関する内容）】

- ・良問である。（福島県・愛媛県）
- ・良好である。（山梨県）
- ・ビジネスの上での実践能力を問う問題であり、重要であると考え。（奈良県）
- ・日頃、目にする事のない葉書の敬称や、お歳暮の習慣がない家庭の生徒には難しかった。（岡山県）
- ・適切である。（鹿児島県）

5. ビジネスコミュニケーション検定試験全般についての意見集約

【実施時期について】

- ・開催時期の見直しが必要。午後受験だと英語検定とのダブル受験で生徒の負担増である。(愛知県)
- ・年1回でいいのではないか。(香川県)
- ・年2回実施を続けてほしい。(鹿児島県)

【内容について】

- ・合格生徒と不合格生徒の得点と平均点から、しっかり学習しなければ得点できない問題も出題され適切な問題だった。(北海道)
- ・今後も今回のような難易度と適切さで出題してほしい。(福島県)
- ・ビジネスマナー等を学ぶにあたって、とても有効な検定試験のため今後も受験したい。(福島県, 奈良県)
- ・生徒の今後に役立つ良問であった。(茨城県)
- ・適切な問題であった。(新潟県, 徳島県, 沖縄県)
- ・非常に内容が充実しており、社会に出る特に3年生に受けさせるとよいと思う。(宮崎県)
- ・記述式の問題があってもよいと思う。(愛知県)
- ・旧検定との差はあまり感じなかった。このままでいい。(愛知県)
- ・全体的に今までより難しく感じた。3年生になれば、一般常識として身につけておきたいという高い意識を持ったうえでの受験となりますが、1年生は、家庭の中だけでは知れない常識的な内容も多く含まれており、理解するには少し難しいものもあると感じた。(岡山県)
- ・どの問題もテキストに準じたバランスの良い問題だと感じた。(鹿児島県)
- ・文章(日本語)の理解力が必要だと思う。(沖縄県)

【試験時間について】

- ・試験開始を9時にしてもらいたい。(秋田県)
- ・午前試験の方がよい。(新潟県)

【面接について(今回より廃止)】

- ・生徒から面接試験を復活させてほしい、進路のために面接試験を受けたかったという意見が多く出た。面接試験があれば受験するモチベーションにもなったのにといい意見もあった。運営面においても大して仕事が増えるわけではないし、生徒の良い経験にもなるので、面接試験は復活させてもよいのではないか。(宮城県)
- ・「面接」は手間がかかるが、必要かとも考える。(奈良県)
- ・面接がなくなり、多少負担は少なくなった。(沖縄県)

【感想, その他】

- ・模範解答の解答欄内の解答フォントを少し大きくしてもらえれば, 採点時に助かる。(青森県)
- ・アンケートの提出がWEBにならないか。(宮城県)
- ・他検定と同日実施というのはやめてほしい。午後からの実施だと, 交通手段の少ない地域は保護者の送迎がままならない家庭がある。(秋田県)
- ・英語検定との同日実施は非常に忙しく煩雑であった。来年度は別日で実施してほしい。(群馬県)
- ・時間も適切だった。(埼玉県)
- ・受験校が総合学科の一連の学校もあるので, 10人以下でも会場校として認めてもらいたい。分会場だと引率を含めて労力が必要になる。(山梨県)
- ・専門学校試験場校を認めてほしい。分会場や一般の参加が多く, やり取りに時間や費用が多くかかってしまう。たださえ, 収入が少ない検定で監督費も少ない金額を支払うのは申し訳ない。(愛知県)
- ・この検定の必要性がわからない。全商検定1級科目取得があると思うがそれにも含まれず, 似たような内容の他検定を受ける人が多いのが現状である。(愛知県)
- ・分会場が多く作られる試験のため, 各回の資料やデータを早急に準備してほしい。(愛知県)
- ・級がないので生徒のモチベーションの維持が難しい。(岐阜県)
- ・「難易度を上げる」「複数科目取得で1級とする」など, 全商3種目などに加えることができる検定になれば指導しやすくなる。(ビジネス基礎とともに取得すれば2級, マーケティング・経済活動と法・ビジネス経済とともに取得すれば1級になるなど, 工夫してもらえるとありがたい。)(岐阜県)
- ・観点別評価等で検定の合格に重きを置くことはできないが, 検定を受験することで可否が出てしまう。主体的に取り組むことは大切だが, 全商協会としても「3種目以上」「5種目」など目標を掲げている以上, 工夫や改善をしていただき, ビジネスコミュニケーション検定を今後も実施していくのであれば, 全商の種目数に加えてもらいたい。(岐阜県)
- ・面接があったために受験していたという声が多い。検定に級をつけてほしい。(香川県)
- ・高校生に必要なビジネスマナー学習に適していますが, 現在は資格としての級合格がないので受験をためらう生徒が少なくない。(徳島県)

令和4年度 第10回 ビジネスコミュニケーション検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和4年7月10日(日)実施

No.	都道府県名	試験場 校数	分会場 校数	高校			一般			合計		
				申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格
1	北海道	4	4	200	186	174	2	2	2	202	188	176
2	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	岩手県	3	0	91	89	84	0	0	0	91	89	84
4	宮城県	9	1	474	428	379	0	0	0	474	428	379
5	秋田県	5	2	106	94	78	0	0	0	106	94	78
6	山形県	3	0	63	58	51	0	0	0	63	58	51
7	福島県	7	1	296	274	236	13	11	11	309	285	247
8	茨城県	7	0	302	273	241	0	0	0	302	273	241
9	栃木県	10	0	1,058	1,014	936	0	0	0	1,058	1,014	936
10	群馬県	6	1	400	379	340	0	0	0	400	379	340
11	埼玉県	9	1	280	270	214	0	0	0	280	270	214
12	千葉県	3	0	120	113	100	0	0	0	120	113	100
13	山梨県	3	0	101	86	72	0	0	0	101	86	72
14	東京都	4	0	161	140	121	1	1	1	162	141	122
15	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	新潟県	7	0	328	309	283	0	0	0	328	309	283
17	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	福井県	4	1	91	80	75	0	0	0	91	80	75
20	長野県	4	0	104	100	86	0	0	0	104	100	86
21	静岡県	7	0	586	520	467	0	0	0	586	520	467
22	愛知県	8	1	506	453	356	30	26	21	536	479	377
23	岐阜県	1	1	65	35	28	0	0	0	65	35	28
24	三重県	4	0	113	111	109	0	0	0	113	111	109
25	滋賀県	4	0	158	141	123	0	0	0	158	141	123
26	京都府	2	0	135	114	108	0	0	0	135	114	108
27	大阪府	5	0	245	172	133	9	7	6	254	179	139
28	兵庫県	5	0	266	223	219	1	1	0	267	224	219
29	奈良県	3	0	55	53	50	16	15	13	71	68	63
30	和歌山県	2	0	61	54	52	0	0	0	61	54	52
31	鳥取県	1	0	41	39	39	0	0	0	41	39	39
32	島根県	3	1	175	157	143	0	0	0	175	157	143
33	岡山県	10	1	671	593	532	0	0	0	671	593	532
34	広島県	3	0	89	85	61	0	0	0	89	85	61
35	山口県	5	1	142	126	92	0	0	0	142	126	92
36	香川県	3	1	122	113	96	0	0	0	122	113	96
37	徳島県	5	2	218	198	168	0	0	0	218	198	168
38	愛媛県	7	1	229	206	184	0	0	0	229	206	184
39	高知県	2	1	39	34	31	0	0	0	39	34	31
40	福岡県	4	0	150	136	122	0	0	0	150	136	122
41	佐賀県	5	0	375	351	316	0	0	0	375	351	316
42	長崎県	2	0	19	19	18	0	0	0	19	19	18
43	熊本県	5	0	103	99	92	0	0	0	103	99	92
44	大分県	4	2	91	67	65	0	0	0	91	67	65
45	宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿児島県	6	2	264	236	207	0	0	0	264	236	207
47	沖縄県	2	0	116	94	81	0	0	0	116	94	81
合計		196	25	9,209	8,322	7,362	72	63	54	9,281	8,385	7,416
合格率				88.5%			85.7%			88.4%		

令和4年度 第11回 ビジネスコミュニケーション検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和4年12月18日(日)実施

No.	都道府県名	試験場 校数	分会場 校数	高校			一般			合計			年度合計		
				申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格
1	北海道	3	2	256	247	201	0	0	0	256	247	201	458	435	377
2	青森県	2	0	15	15	14	0	0	0	15	15	14	15	15	14
3	岩手県	2	0	30	27	12	0	0	0	30	27	12	121	116	96
4	宮城県	3	0	44	40	18	1	1	1	45	41	19	519	469	398
5	秋田県	2	1	24	19	12	0	0	0	24	19	12	130	113	90
6	山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	58	51
7	福島県	3	0	55	49	43	0	0	0	55	49	43	364	334	290
8	茨城県	2	0	119	75	50	0	0	0	119	75	50	421	348	291
9	栃木県	3	0	148	130	97	0	0	0	148	130	97	1,206	1,144	1,033
10	群馬県	5	2	580	538	441	0	0	0	580	538	441	980	917	781
11	埼玉県	3	0	47	39	26	0	0	0	47	39	26	327	309	240
12	千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120	113	100
13	山梨県	2	0	16	13	13	0	0	0	16	13	13	117	99	85
14	東京都	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	162	141	122
15	神奈川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	新潟県	4	1	116	86	61	0	0	0	116	86	61	444	395	344
17	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	石川県	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
19	福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	80	75
20	長野県	3	0	96	89	74	0	0	0	96	89	74	200	189	160
21	静岡県	2	0	79	73	68	0	0	0	79	73	68	665	593	535
22	愛知県	6	2	327	306	215	20	13	8	347	319	223	883	798	600
23	岐阜県	2	0	33	27	10	0	0	0	33	27	10	98	62	38
24	三重県	1	0	7	7	6	0	0	0	7	7	6	120	118	115
25	滋賀県	2	0	17	15	15	0	0	0	17	15	15	175	156	138
26	京都府	2	0	18	10	7	0	0	0	18	10	7	153	124	115
27	大阪府	1	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	256	181	141
28	兵庫県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	267	224	219
29	奈良県	1	2	22	22	13	3	0	0	25	22	13	96	90	76
30	和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	54	52
31	鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	39	39
32	島根県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	157	143
33	岡山県	4	1	497	444	340	0	0	0	497	444	340	1,168	1,037	872
34	広島県	2	0	23	17	1	2	2	1	25	19	2	114	104	63
35	山口県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142	126	92
36	香川県	3	0	71	64	35	0	0	0	71	64	35	193	177	131
37	徳島県	1	2	26	25	13	0	0	0	26	25	13	244	223	181
38	愛媛県	3	1	94	84	66	2	2	2	96	86	68	325	292	252
39	高知県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	34	31
40	福岡県	4	0	103	66	44	0	0	0	103	66	44	253	202	166
41	佐賀県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	375	351	316
42	長崎県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	18
43	熊本県	2	0	25	23	13	0	0	0	25	23	13	128	122	105
44	大分県	4	2	254	184	133	0	0	0	254	184	133	345	251	198
45	宮崎県	3	0	112	87	49	0	0	0	112	87	49	112	87	49
46	鹿児島	5	1	251	199	141	0	0	0	251	199	141	515	435	348
47	沖縄県	2	0	81	61	36	0	0	0	81	61	36	197	155	117
合計		91	17	3,586	3,081	2,267	31	21	15	3,617	3,102	2,282	12,898	11,487	9,698
合格率				73.6%			71.4%			73.6%			84.4%		